

# 土木関係積算標準・積算要領

6 - 3

(開削・トンネル編)

新 旧 対 照 表

令和6年版

(令和6年9月)

ページ	改 正	現 行																																																														
P9	<p>(5) 圧送管組立・撤去歩掛                      コンクリートポンプ車から作業範囲 30mを越える場合は、越えた部分の圧送管延長部分について次表の労務を、組立・撤去歩掛として計上する。                      なお、これによりがたい場合は別途考慮する。</p> <p style="text-align: center;">_____ 圧送管組立・撤去歩掛 (10m 当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>単 位</th> <th>組立労務</th> <th>撤去労務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通作業員</td> <td>人</td> <td>0.26</td> <td>0.20</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 圧送管の固定足場 (受枠) を必要とする場合は、別途計上する。</p>	名 称	単 位	組立労務	撤去労務	普通作業員	人	0.26	0.20	<p>(5) 圧送管組立・撤去歩掛                      コンクリートポンプ車から作業範囲 30mを越える場合は、越えた部分の圧送管延長部分について次表の労務を、組立・撤去歩掛として計上する。                      なお、これによりがたい場合は別途考慮する。</p> <p style="text-align: center;">表 5-6 圧送管組立・撤去歩掛 (10m 当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>単 位</th> <th>組立労務</th> <th>撤去労務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通作業員</td> <td>人</td> <td>0.26</td> <td>0.20</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 圧送管の固定足場 (受枠) を必要とする場合は、別途計上する。</p>	名 称	単 位	組立労務	撤去労務	普通作業員	人	0.26	0.20																																														
名 称	単 位	組立労務	撤去労務																																																													
普通作業員	人	0.26	0.20																																																													
名 称	単 位	組立労務	撤去労務																																																													
普通作業員	人	0.26	0.20																																																													
P10	<p>(2) 突起コンクリートの型枠は、次表による。</p> <p style="text-align: right;">(10 箇所当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 別</th> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th colspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">記 事</th> </tr> <tr> <th>全 円</th> <th>半 円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">組立撤去</td> <td>土木一般世話役</td> <td>人</td> <td>0.34</td> <td>0.17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠 工</td> <td>〃</td> <td>2.54</td> <td>1.27</td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td>〃</td> <td>0.30</td> <td>0.15</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>鋼製円形型枠</td> <td>円</td> <td colspan="2">15,800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼製半円型枠</td> <td>〃</td> <td colspan="2">11,500</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 構内への資材等吊卸し、吊上げにクレーンを使用する場合は、8-9-3 共通機械設備による。                  2. _____                  _____ 鋼製突起用型枠費には、基準器用箱抜き、面木、ボルト等の費用を含んでいる。</p>	種 別	名 称	単 位	数 量		記 事	全 円	半 円	組立撤去	土木一般世話役	人	0.34	0.17		型 枠 工	〃	2.54	1.27		普通作業員	〃	0.30	0.15		材 料	鋼製円形型枠	円	15,800			鋼製半円型枠	〃	11,500			<p>(2) 突起コンクリートの型枠は、次表による。</p> <p style="text-align: right;">(10 箇所当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>名 称</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>記 事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">組立撤去</td> <td>土木一般世話役</td> <td>人</td> <td>0.09</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠 工</td> <td>〃</td> <td>0.76</td> <td></td> </tr> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> <td>_____</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>鋼製円形型枠</td> <td>円</td> <td>15,800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼製半円型枠</td> <td>〃</td> <td>11,500</td> <td>半円単価</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 構内への資材等吊卸し、吊上げにクレーンを使用する場合は、8-8-3 共通機械設備による。                  2. 半円形突起コンクリートの場合は一対で1箇所とする。                  3. 鋼製突起用型枠費には、基準器用箱抜き、面木、ボルト等の費用を含んでいる。</p>	種 別	名 称	単 位	数 量	記 事	組立撤去	土木一般世話役	人	0.09		型 枠 工	〃	0.76		_____	_____	_____		材 料	鋼製円形型枠	円	15,800		鋼製半円型枠	〃	11,500	半円単価
種 別	名 称				単 位	数 量		記 事																																																								
		全 円	半 円																																																													
組立撤去	土木一般世話役	人	0.34	0.17																																																												
	型 枠 工	〃	2.54	1.27																																																												
	普通作業員	〃	0.30	0.15																																																												
材 料	鋼製円形型枠	円	15,800																																																													
	鋼製半円型枠	〃	11,500																																																													
種 別	名 称	単 位	数 量	記 事																																																												
組立撤去	土木一般世話役	人	0.09																																																													
	型 枠 工	〃	0.76																																																													
	_____	_____	_____																																																													
材 料	鋼製円形型枠	円	15,800																																																													
	鋼製半円型枠	〃	11,500	半円単価																																																												

ページ	改正	現行																																																																						
現14 改14	<p>6-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、次表を標準とする。 (設計1 m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">単位</th> <th colspan="5">設計吹付厚</th> <th rowspan="3">記事</th> </tr> <tr> <th>岩IV</th> <th>岩III</th> <th>岩II</th> <th>岩I (IN-2)</th> <th>岩I (IN-1)</th> </tr> <tr> <th colspan="4">3 cm</th> <th>5 cm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鏡吹付 コンクリート</td> <td rowspan="3">m<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>上半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>下半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>1.10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>全断面</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 岩I (IN-1) では原則として鏡吹付を実施する。  (注2) 岩I (IN-2) ・岩II ・岩III ・岩IVにおいて、切羽の肌落ち災害防止対策として鏡吹付を実施する場合は上表を標準とする。  (注3) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。  (注4) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。  (注5) 鏡吹付施工数量は以下の通りとする。  全断面工法：上下半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。  補助ベンチ付き全断面工法：上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。  (注6) 補助工法 (鏡吹付) 施工区間は除く。</p>	項目	単位	設計吹付厚					記事	岩IV	岩III	岩II	岩I (IN-2)	岩I (IN-1)	3 cm				5 cm	鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)	—	—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)	1.10	—	—	—	—	全断面	<p>6-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、次表を標準とする。 (設計1 m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">単位</th> <th colspan="4">設計吹付厚</th> <th rowspan="3">記事</th> </tr> <tr> <th>岩IV</th> <th>岩III</th> <th>岩II</th> <th>岩I (IN-1、IN-2)</th> </tr> <tr> <th colspan="4">3 cm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鏡吹付 コンクリート</td> <td rowspan="3">m<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>上半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>下半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>1.10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>全断面</td> </tr> </tbody> </table> <p>(新設)  (注1) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。  (注2) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。  (注3) 鏡吹付施工数量は以下の通りとする。  全断面工法：上下半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。  補助ベンチ付き全断面工法：上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。  (注4) 補助工法 (鏡吹付) 施工区間は除く。</p>	項目	単位	設計吹付厚				記事	岩IV	岩III	岩II	岩I (IN-1、IN-2)	3 cm				鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)	—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)	1.10	—	—	—	全断面
項目	単位			設計吹付厚						記事																																																														
				岩IV	岩III	岩II	岩I (IN-2)	岩I (IN-1)																																																																
		3 cm				5 cm																																																																		
鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)																																																																	
		—	—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)																																																																	
		1.10	—	—	—	—	全断面																																																																	
項目	単位	設計吹付厚				記事																																																																		
		岩IV	岩III	岩II	岩I (IN-1、IN-2)																																																																			
		3 cm																																																																						
鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)																																																																		
		—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)																																																																		
		1.10	—	—	—	全断面																																																																		
現49 改49	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 3,000mまで</p> <p>ア) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub></p> <p>イ) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub></p> <p>ウ) 送風機 2,000 kW (110 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p>エ) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64 kw) (削除)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>4</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>4</sub></p> <p>オ) 伸縮ダクト1,500mm(L=80m)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>4</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>4</sub></p>	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 3,000mまで</p> <p>ア) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub></p> <p>イ) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub></p> <p>ウ) 送風機 2,000 kW (110 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p>エ) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64 kw) /伸縮ダクト1,500mm(L=80m)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>4</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>4</sub></p> <p>(新設)</p>																																																																						

ページ	改 正	現 行								
現 54 改 54	<p>12-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費 (円/m)</p> $= E / L_1$ <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長 ..... (m)</p> <table border="1" data-bbox="486 420 1478 499"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0km~3.0km未満</td> <td><math>E = 1,299 + 1,900 \times L_2 + 206 \times L_2^2 + 166 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p>E : 工事中電灯、電力設備費 ..... (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長 ..... (km)</p> <p>M : 掘削開始から覆工完了までの月数 ..... (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)	0km~3.0km未満	$E = 1,299 + 1,900 \times L_2 + 206 \times L_2^2 + 166 \times M$	<p>12-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費 (円/m)</p> $= E / L_1$ <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長 ..... (m)</p> <table border="1" data-bbox="1745 420 2736 499"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0km~3.0km未満</td> <td><math>E = 1,129 + 1,693 \times L_2 + 198 \times L_2^2 + 163 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p>E : 工事中電灯、電力設備費 ..... (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長 ..... (km)</p> <p>M : 掘削開始から覆工完了までの月数 ..... (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)	0km~3.0km未満	$E = 1,129 + 1,693 \times L_2 + 198 \times L_2^2 + 163 \times M$
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)									
0km~3.0km未満	$E = 1,299 + 1,900 \times L_2 + 206 \times L_2^2 + 166 \times M$									
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)									
0km~3.0km未満	$E = 1,129 + 1,693 \times L_2 + 198 \times L_2^2 + 163 \times M$									

ページ	改 正	現 行																																																		
<p>現 15 改 15</p>	<p>7-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" data-bbox="379 235 1424 472"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>岩Ⅱ</th> <th>岩Ⅰ (IN-2)</th> <th>岩Ⅰ (IN-1)</th> <th>岩Ⅰ (I<sub>L</sub>・I<sub>S</sub>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>3cm</td> <td></td> <td>5cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="3">1.10</td> <td>上半</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">-</td> <td>下半</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注1) 岩Ⅰ (IN-1)・岩Ⅰ (IL)・岩Ⅰ (IS) では原則として鏡吹付を実施する。</u>  <u>(注2) 岩Ⅰ (IN-2)・岩Ⅱにおいて、切羽の肌落ち災害防止対策として鏡吹付を実施する場合は上表を標準とする。</u>  <u>(注3) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。</u>  <u>(注4) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。</u>  <u>(注5) 鏡吹付施工数量は上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。</u>  <u>(注6) 補助工法(鏡吹付)施工区間は除く。</u></p>	種別	単位	設計吹付厚			記事	岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-2)	岩Ⅰ (IN-1)	岩Ⅰ (I <sub>L</sub> ・I <sub>S</sub> )			3cm		5cm		施工数量	m <sup>3</sup>	1.10			上半			-			下半	<p>7-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" data-bbox="1638 235 2386 436"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>岩Ⅱ</th> <th>岩Ⅰ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">3cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="2">1.10</td> <td>上半</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">-</td> <td>下半</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(注1) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。</u>  <u>(注2) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。</u>  <u>(注3) 鏡吹付施工数量は上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。</u>  <u>(注4) 補助工法(鏡吹付)施工区間は除く。</u></p>	種別	単位	設計吹付厚		記事	岩Ⅱ	岩Ⅰ			3cm			施工数量	m <sup>3</sup>	1.10		上半			-		下半
種別	単位			設計吹付厚				記事																																												
		岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-2)	岩Ⅰ (IN-1)	岩Ⅰ (I <sub>L</sub> ・I <sub>S</sub> )																																															
		3cm		5cm																																																
施工数量	m <sup>3</sup>	1.10			上半																																															
		-			下半																																															
種別	単位	設計吹付厚		記事																																																
		岩Ⅱ	岩Ⅰ																																																	
		3cm																																																		
施工数量	m <sup>3</sup>	1.10		上半																																																
		-		下半																																																
<p>現 52 改 52</p>	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 3,000mまで</p> <p>ア) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub></p> <p>イ) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub></p> <p>ウ) 送風機 2,000 kW (110 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p>エ) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64 kW) <u>(削除)</u></p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>4</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>4</sub></p> <p><u>オ) 伸縮ダクト 1,500mm(L=80m)</u></p> <p><u>①運転日数 D=21×M<sub>4</sub></u>  <u>②供用日数 K=30×M<sub>4</sub></u></p>	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 3,000mまで</p> <p>ア) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub></p> <p>イ) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub></p> <p>ウ) 送風機 2,000 kW (110 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p>エ) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64 kW) /<u>伸縮ダクト 1,500mm(L=80m)</u></p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>4</sub>                  ②供用日数 K=30×M<sub>4</sub></p> <p><u>(新設)</u></p>																																																		

ページ	改 正	現 行								
現 57 改 57	<p>13-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費(円/m) = <math>E_{-1}/L_1</math> 又は <math>E_{-2}/L_1</math></p> <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" data-bbox="430 384 1445 533"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0km~3.0km 未満</td> <td><math>E_{-1} = 1,313 + 1,895 \times L_2 + 283 \times L_2^2 + 156 \times M</math> <math>E_{-2} = 1,242 + 1,865 \times L_2 + 228 \times L_2^2 + 178 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p><math>E_{-1}</math> : 岩 I<sub>S</sub>・岩 I<sub>L</sub>、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>E_{-2}</math> : 岩 I (I<sub>N-1</sub>・I<sub>N-2</sub>)・岩 II、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長…………… (km)</p> <p>M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)	0km~3.0km 未満	$E_{-1} = 1,313 + 1,895 \times L_2 + 283 \times L_2^2 + 156 \times M$ $E_{-2} = 1,242 + 1,865 \times L_2 + 228 \times L_2^2 + 178 \times M$	<p>13-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費(円/m) = <math>E_{-1}/L_1</math> 又は <math>E_{-2}/L_1</math></p> <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" data-bbox="1688 384 2703 533"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0km~3.0km 未満</td> <td><math>E_{-1} = 1,130 + 1,706 \times L_2 + 267 \times L_2^2 + 153 \times M</math> <math>E_{-2} = 1,066 + 1,675 \times L_2 + 218 \times L_2^2 + 173 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p><math>E_{-1}</math> : 岩 I<sub>S</sub>・岩 I<sub>L</sub>、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>E_{-2}</math> : 岩 I (I<sub>N-1</sub>・I<sub>N-2</sub>)・岩 II、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長…………… (km)</p> <p>M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)	0km~3.0km 未満	$E_{-1} = 1,130 + 1,706 \times L_2 + 267 \times L_2^2 + 153 \times M$ $E_{-2} = 1,066 + 1,675 \times L_2 + 218 \times L_2^2 + 173 \times M$
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)									
0km~3.0km 未満	$E_{-1} = 1,313 + 1,895 \times L_2 + 283 \times L_2^2 + 156 \times M$ $E_{-2} = 1,242 + 1,865 \times L_2 + 228 \times L_2^2 + 178 \times M$									
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)									
0km~3.0km 未満	$E_{-1} = 1,130 + 1,706 \times L_2 + 267 \times L_2^2 + 153 \times M$ $E_{-2} = 1,066 + 1,675 \times L_2 + 218 \times L_2^2 + 173 \times M$									

ページ	改 正	現 行																																																																						
<p>現 24 改 24</p>	<p>6-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、次表を標準とする。 (設計 1 m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">単位</th> <th colspan="5">設計吹付厚</th> <th rowspan="3">記 事</th> </tr> <tr> <th>岩Ⅳ</th> <th>岩Ⅲ</th> <th>岩Ⅱ</th> <th>岩Ⅰ (IN-2)</th> <th>岩Ⅰ (IN-1)</th> </tr> <tr> <th colspan="4">3 cm</th> <th>5 cm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鏡吹付 コンクリート</td> <td rowspan="3">m<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>上半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>下半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>1.10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>全 断 面</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注1)</u> 岩Ⅰ (IN-1) では原則として鏡吹付を実施する。  <u>(注2)</u> 岩Ⅰ (IN-2) ・岩Ⅱ ・岩Ⅲ ・岩Ⅳにおいて、切羽の肌落ち災害防止対策として鏡吹付を実施する場合は上表を標準とする。  <u>(注3)</u> 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。  <u>(注4)</u> 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。  <u>(注5)</u> 鏡吹付施工数量は以下の通りとする。  全断面工法：上下半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。  補助ベンチ付き全断面工法：上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。  <u>(注6)</u> 補助工法 (鏡吹付) 施工区間は除く。</p>	項目	単位	設計吹付厚					記 事	岩Ⅳ	岩Ⅲ	岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-2)	岩Ⅰ (IN-1)	3 cm				5 cm	鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)	—	—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)	1.10	—	—	—	—	全 断 面	<p>6-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、次表を標準とする。 (設計 1 m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">単位</th> <th colspan="4">設計吹付厚</th> <th rowspan="3">記 事</th> </tr> <tr> <th>岩Ⅳ</th> <th>岩Ⅲ</th> <th>岩Ⅱ</th> <th>岩Ⅰ (IN-1、IN-2)</th> </tr> <tr> <th colspan="4">3 cm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鏡吹付 コンクリート</td> <td rowspan="3">m<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>1.10</td> <td>上半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>下半 (補助ベンチ付全断面)</td> </tr> <tr> <td>1.10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>全 断 面</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u>  <u>(注1)</u> 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。  <u>(注2)</u> 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。  <u>(注3)</u> 鏡吹付施工数量は以下の通りとする。  全断面工法：上下半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。  補助ベンチ付き全断面工法：上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。  <u>(注4)</u> 補助工法 (鏡吹付) 施工区間は除く。</p>	項目	単位	設計吹付厚				記 事	岩Ⅳ	岩Ⅲ	岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-1、IN-2)	3 cm				鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)	—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)	1.10	—	—	—	全 断 面
項目	単位			設計吹付厚						記 事																																																														
				岩Ⅳ	岩Ⅲ	岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-2)	岩Ⅰ (IN-1)																																																																
		3 cm				5 cm																																																																		
鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)																																																																	
		—	—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)																																																																	
		1.10	—	—	—	—	全 断 面																																																																	
項目	単位	設計吹付厚				記 事																																																																		
		岩Ⅳ	岩Ⅲ	岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-1、IN-2)																																																																			
		3 cm																																																																						
鏡吹付 コンクリート	m <sup>3</sup>	—	1.10	1.10	1.10	上半 (補助ベンチ付全断面)																																																																		
		—	—	—	—	下半 (補助ベンチ付全断面)																																																																		
		1.10	—	—	—	全 断 面																																																																		
<p>現 62 改 62</p>	<p>(5) 運転日数及び供用日数  1) トンネル片押延長 6,000mまで  ア) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)  ①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub>  イ) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)  ①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub>  ウ) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64kw) <u>(削除)</u>  ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub>  エ) 伸縮ダクト 1,500mm (L=80m)  ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p>	<p>(5) 運転日数及び供用日数  1) トンネル片押延長 6,000mまで  ア) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)  ①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub>  イ) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)  ①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub>  ウ) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64kw) /<u>伸縮ダクト 1,500mm (L=80m)</u>  ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>  ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub>  <u>(新設)</u></p>																																																																						

ページ	改 正	現 行								
現 66 改 66	<p>12-10-1 工事用電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費 (円/m)</p> $= E / L_1$ <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長 ..... (m)</p> <table border="1" data-bbox="486 457 1478 533"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事用電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0km~6.0kmまで</td> <td><math>E = -2,567 + 4,320 \times L_2 - 65 \times L_2^2 + 157 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p>E : 工事用電灯、電力設備費 ..... (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長 ..... (km)</p> <p>M : 掘削開始から覆工完了までの月数 ..... (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)	3.0km~6.0kmまで	$E = -2,567 + 4,320 \times L_2 - 65 \times L_2^2 + 157 \times M$	<p>12-10-1 工事用電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費 (円/m)</p> $= E / L_1$ <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長 ..... (m)</p> <table border="1" data-bbox="1745 457 2736 533"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事用電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0km~6.0kmまで</td> <td><math>E = -2,694 + 4,094 \times L_2 - 70.4 \times L_2^2 + 153 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p>E : 工事用電灯、電力設備費 ..... (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長 ..... (km)</p> <p>M : 掘削開始から覆工完了までの月数 ..... (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)	3.0km~6.0kmまで	$E = -2,694 + 4,094 \times L_2 - 70.4 \times L_2^2 + 153 \times M$
トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)									
3.0km~6.0kmまで	$E = -2,567 + 4,320 \times L_2 - 65 \times L_2^2 + 157 \times M$									
トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)									
3.0km~6.0kmまで	$E = -2,694 + 4,094 \times L_2 - 70.4 \times L_2^2 + 153 \times M$									



ページ	改 正	現 行																																																		
<p>現 21 改 21</p>	<p>7-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" data-bbox="379 235 1424 474"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>岩Ⅱ</th> <th>岩Ⅰ (IN-2)</th> <th>岩Ⅰ (IN-1)</th> <th>岩Ⅰ (I<sub>L</sub>・I<sub>S</sub>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>3cm</td> <td colspan="2">5cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="3">1.10</td> <td>上半</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">-</td> <td>下半</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注1) 岩Ⅰ (IN-1) ・岩Ⅰ (IL) ・岩Ⅰ (IS) では原則として鏡吹付を実施する。</u>  <u>(注2) 岩Ⅰ (IN-2) ・岩Ⅱにおいて、切羽の肌落ち災害防止対策として鏡吹付を実施する場合は上表を標準とする。</u>  <u>(注3) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。</u>  <u>(注4) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。</u>  <u>(注5) 鏡吹付施工数量は上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。</u>  <u>(注6) 補助工法 (鏡吹付) 施工区間は除く。</u></p>	種別	単位	設計吹付厚			記事	岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-2)	岩Ⅰ (IN-1)	岩Ⅰ (I <sub>L</sub> ・I <sub>S</sub> )			3cm	5cm			施工数量	m <sup>3</sup>	1.10			上半			-			下半	<p>7-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" data-bbox="1638 235 2386 436"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>岩Ⅱ</th> <th>岩Ⅰ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">3cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="2">1.10</td> <td>上半</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">-</td> <td>下半</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u>  <u>(注1) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。</u>  <u>(注2) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。</u>  <u>(注3) 鏡吹付施工数量は上半の設計断面積に設計吹付厚を乗ずる。下半は計上せず。</u>  <u>(注4) 補助工法 (鏡吹付) 施工区間は除く。</u></p>	種別	単位	設計吹付厚		記事	岩Ⅱ	岩Ⅰ			3cm			施工数量	m <sup>3</sup>	1.10		上半			-		下半
種別	単位			設計吹付厚				記事																																												
		岩Ⅱ	岩Ⅰ (IN-2)	岩Ⅰ (IN-1)	岩Ⅰ (I <sub>L</sub> ・I <sub>S</sub> )																																															
		3cm	5cm																																																	
施工数量	m <sup>3</sup>	1.10			上半																																															
		-			下半																																															
種別	単位	設計吹付厚		記事																																																
		岩Ⅱ	岩Ⅰ																																																	
		3cm																																																		
施工数量	m <sup>3</sup>	1.10		上半																																																
		-		下半																																																
<p>現 21 改 22</p>	<p>(5) 運転日数及び供用日数                      1) トンネル片押延長 6,000mまで                      7) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub>                      8) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub>                      9) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64kw) <u>(削除)</u>                          ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub>                      10) <u>伸縮ダクト 1,500mm(L=80m)</u>                          ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p>	<p>(5) 運転日数及び供用日数                      1) トンネル片押延長 6,000mまで                      7) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub>                      8) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub>                      9) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64kw) <u>/伸縮ダクト 1,500mm(L=80m)</u>                          ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p><u>(新設)</u></p>																																																		
<p>現 58 改 58</p>	<p>(5) 運転日数及び供用日数                      1) トンネル片押延長 6,000mまで                      7) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub>                      8) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub>                      9) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64kw) <u>(削除)</u>                          ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub>                      10) <u>伸縮ダクト 1,500mm(L=80m)</u>                          ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p>	<p>(5) 運転日数及び供用日数                      1) トンネル片押延長 6,000mまで                      7) 送風機 1,200m<sup>3</sup>/min (55 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>1</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>1</sub>                      8) 送風機 1,500m<sup>3</sup>/min (80 kW×2 台組) /反転軸流式 (可変風量型)                          ①運転日数 D=21×M<sub>2</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>2</sub>                      9) 集塵機 2,400m<sup>3</sup>/min (64kw) <u>/伸縮ダクト 1,500mm(L=80m)</u>                          ①運転日数 D=21×M<sub>3</sub>                          ②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p><u>(新設)</u></p>																																																		

ページ	改 正	現 行								
現 63 改 63	<p>13-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費(円/m) = <math>E_L/L_1</math> 又は <math>E_N/L_1</math></p> <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" data-bbox="430 384 1445 533"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0km~6.0km まで</td> <td><math>E_L = -5,386 + 6,851 \times L_2 - 296 \times L_2^2 + 109 \times M</math> <math>E_N = -5,071 + 6,834 \times L_2 - 299 \times L_2^2 + 120 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p><math>E_L</math> : 岩 I<sub>S</sub>・岩 I<sub>L</sub>、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>E_N</math> : 岩 I (I<sub>N-1</sub>・I<sub>N-2</sub>)・岩 II、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長…………… (km)</p> <p><math>M</math> : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)	3.0km~6.0km まで	$E_L = -5,386 + 6,851 \times L_2 - 296 \times L_2^2 + 109 \times M$ $E_N = -5,071 + 6,834 \times L_2 - 299 \times L_2^2 + 120 \times M$	<p>13-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費(円/m) = <math>E_L/L_1</math> 又は <math>E_N/L_1</math></p> <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" data-bbox="1688 384 2703 533"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0km~6.0km まで</td> <td><math>E_L = -5,218 + 6,474 \times L_2 - 287 \times L_2^2 + 105 \times M</math> <math>E_N = -4,974 + 6,482 \times L_2 - 293 \times L_2^2 + 116 \times M</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中</p> <p><math>E_L</math> : 岩 I<sub>S</sub>・岩 I<sub>L</sub>、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>E_N</math> : 岩 I (I<sub>N-1</sub>・I<sub>N-2</sub>)・岩 II、工事中電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>L_2</math> : トンネル延長…………… (km)</p> <p><math>M</math> : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月)</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に作業坑の延長を合算し、Mは作業坑の掘削開始からとして上式にて算出する。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)	3.0km~6.0km まで	$E_L = -5,218 + 6,474 \times L_2 - 287 \times L_2^2 + 105 \times M$ $E_N = -4,974 + 6,482 \times L_2 - 293 \times L_2^2 + 116 \times M$
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)									
3.0km~6.0km まで	$E_L = -5,386 + 6,851 \times L_2 - 296 \times L_2^2 + 109 \times M$ $E_N = -5,071 + 6,834 \times L_2 - 299 \times L_2^2 + 120 \times M$									
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費 (万円)									
3.0km~6.0km まで	$E_L = -5,218 + 6,474 \times L_2 - 287 \times L_2^2 + 105 \times M$ $E_N = -4,974 + 6,482 \times L_2 - 293 \times L_2^2 + 116 \times M$									

ページ	改 正	現 行																																		
現 14 改 14	<p>6-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>拡大部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">3cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="2">1.10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注1)</u> 切羽の肌落ち災害防止対策として鏡吹付を実施する場合は上表を標準とする。  <u>(注2)</u> 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。  <u>(注3)</u> 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。  <u>(注4)</u> 補助工法(鏡吹付)施工箇所は除く。</p>	種別	単位	設計吹付厚		記事	一般部	拡大部			3cm			施工数量	m <sup>3</sup>	1.10			<p>6-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>拡大部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">3cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="2">1.10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u>  <u>(注1)</u> 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。  <u>(注2)</u> 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。  <u>(注3)</u> 補助工法(鏡吹付)施工箇所は除く。</p>	種別	単位	設計吹付厚		記事	一般部	拡大部			3cm			施工数量	m <sup>3</sup>	1.10		
種別	単位			設計吹付厚			記事																													
		一般部	拡大部																																	
		3cm																																		
施工数量	m <sup>3</sup>	1.10																																		
種別	単位	設計吹付厚		記事																																
		一般部	拡大部																																	
		3cm																																		
施工数量	m <sup>3</sup>	1.10																																		
現 29 改 29	<p>8-4 換気設備</p> <p>(1) 設備標準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>換気設備は、トンネル延長が 30m以上に設備することとし、切羽から坑口までの距離が 30mに達した時から行う。</li> <li>送風機は、坑口付近に設備し吸引捕集方式(送気・吸引捕集式)とする。</li> <li>送風機容量は、切羽位置が 500mまでは 500 m<sup>3</sup>/min(4.9kPa 30kw×2)、これを超え 2,000mまでは 750 m<sup>3</sup>/min(3.4kPa 37kw×2)とする。</li> <li>集塵機は、切羽位置が 150mに達した時点で坑内に設備し、切羽の進行に伴って順次移動する吸引捕集式とする。</li> <li>集塵機容量は、750 m<sup>3</sup>/min (15kw) とする。</li> <li>送風機は、送風機容量が替わる都度設備替えるものとする。</li> <li>送風管の種類は、ビニール風管径 1,200 mm(定尺長 L=10m)を設備する。</li> <li>切羽からの控え長さは、40mを標準とする。</li> <li>吸引捕集方式の場合は、集塵機に伸縮ダクト径 1,400mm(L=80m)を設備する。</li> </ol> <p>(2) 換気設備台数</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>8-4 換気設備</p> <p>(1) 設備標準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>換気設備は、トンネル延長が 30m以上に設備することとし、切羽から坑口までの距離が 30mに達した時から行う。</li> <li>送風機は、坑口付近に設備し吸引捕集方式(送気・吸引捕集式)とする。</li> <li>送風機容量は、切羽位置が 500mまでは 500 m<sup>3</sup>/min(4.9kPa 30kw×2)、これを超え 2,000mまでは 750 m<sup>3</sup>/min(3.4kPa 37kw×2)とする。</li> <li>集塵機は、切羽位置が 150mに達した時点で坑内に設備し、切羽の進行に伴って順次移動する吸引捕集式とする。</li> <li>集塵機容量は、750 m<sup>3</sup>/min (15kw) とする。</li> <li>送風機は、送風機容量が替わる都度設備替えるものとする。</li> <li>送風管の種類は、ビニール風管径 1,200 mm(定尺長 L=10m)を設備する。</li> <li>切羽からの控え長さは、40mを標準とする。</li> </ol> <p><u>(新設)</u></p> <p>(2) 換気設備台数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用トンネル 片押延長(L)</th> <th rowspan="2">切羽位置</th> <th rowspan="2">送風機の種類</th> <th rowspan="2">設備 台数</th> <th colspan="2">風 管</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>布設長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">2,000mまで</td> <td>500mまで</td> <td>送風機 500 m<sup>3</sup>/min (可変) 30kW×2 台組</td> <td>1台</td> <td rowspan="2">ビニール 径 1,200mm</td> <td rowspan="2">L=40m</td> </tr> <tr> <td>2,000mまで</td> <td>送風機 750 m<sup>3</sup>/min (可変) 37kW×2 台組</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注)</u> 表中の(可変)とは、可変風量型ファンである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用トンネル 片押延長(L)</th> <th rowspan="2">切羽位置</th> <th rowspan="2">集塵機の種類</th> <th rowspan="2">設備 台数</th> <th colspan="2">風 管</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>布設長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,000mまで</td> <td>150mから 2,000mまで</td> <td>集塵機 750 m<sup>3</sup>/min 15kW</td> <td>1台</td> <td>伸縮ダクト 径 1,400mm</td> <td>L=80m</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u></p>	適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	送風機の種類	設備 台数	風 管		種別	布設長	2,000mまで	500mまで	送風機 500 m <sup>3</sup> /min (可変) 30kW×2 台組	1台	ビニール 径 1,200mm	L=40m	2,000mまで	送風機 750 m <sup>3</sup> /min (可変) 37kW×2 台組	1台	適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	集塵機の種類	設備 台数	風 管		種別	布設長	2,000mまで	150mから 2,000mまで	集塵機 750 m <sup>3</sup> /min 15kW	1台	伸縮ダクト 径 1,400mm	L=80m			
適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	送風機の種類					設備 台数	風 管																												
			種別	布設長																																
2,000mまで	500mまで	送風機 500 m <sup>3</sup> /min (可変) 30kW×2 台組	1台	ビニール 径 1,200mm	L=40m																															
	2,000mまで	送風機 750 m <sup>3</sup> /min (可変) 37kW×2 台組	1台																																	
適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	集塵機の種類	設備 台数	風 管																																
				種別	布設長																															
2,000mまで	150mから 2,000mまで	集塵機 750 m <sup>3</sup> /min 15kW	1台	伸縮ダクト 径 1,400mm	L=80m																															

ページ	改 正	現 行
<p>現 29 改 29</p> <p>現 30 改 30</p>	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 2,000mまで</p> <p>ア) 送風機 500m<sup>3</sup>/min (30 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>1</sub></p> <p>②供用日数 K=30×M<sub>1</sub></p> <p>イ) 送風機 750m<sup>3</sup>/min (37 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>2</sub></p> <p>②供用日数 K=30×M<sub>2</sub></p> <p>ウ) 集塵機 750m<sup>3</sup>/min (15 kw)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub></p> <p>②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p><u>エ) 伸縮ダクト 1,400mm(L=80m)</u></p> <p><u>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub></u></p> <p><u>②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></u></p> <p>上式中</p> <p>M<sub>1</sub>: 坑口 30mから500mまでの月数…………… (月)</p> <p>M<sub>2</sub>: 500mから2,000mまでの月数…………… (月)</p> <p>M<sub>3</sub>: 150mから2,000mまでの月数…………… (月)</p>	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 2,000mまで</p> <p>ア) 送風機 500m<sup>3</sup>/min (30 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>1</sub></p> <p>②供用日数 K=30×M<sub>1</sub></p> <p>イ) 送風機 750m<sup>3</sup>/min (37 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>2</sub></p> <p>②供用日数 K=30×M<sub>2</sub></p> <p>ウ) 集塵機 750m<sup>3</sup>/min (15 kw)</p> <p>①運転日数 D=21×M<sub>3</sub></p> <p>②供用日数 K=30×M<sub>3</sub></p> <p><u>(新設)</u></p> <p>上式中</p> <p>M<sub>1</sub>: 坑口 30mから500mまでの月数…………… (月)</p> <p>M<sub>2</sub>: 500mから2,000mまでの月数…………… (月)</p> <p>M<sub>3</sub>: 150mから2,000mまでの月数…………… (月)</p>
<p>現 32 改 32</p>	<p>8-10-1 工事用電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費(円/m)</p> <p>=E/L<sub>1</sub></p> <p>上式中</p> <p>L<sub>1</sub> : 作業坑トンネル延長…………… ( m )</p> <p><u>E = 1,347 + 1,923 L<sub>2</sub> + 291 L<sub>2</sub><sup>2</sup> + 116 M</u></p> <p>上式中</p> <p>E : 工事用電灯、電力設備費…………… ( 万円 )</p> <p>L<sub>2</sub> : 作業坑トンネル延長…………… ( km )</p> <p>M : 掘削開始から掘削完了までの月数…………… ( 月 )</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、本坑の算定式による。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費(13 m<sup>3</sup>)は必要により別途計上する。</p>	<p>8-10-1 工事用電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費(円/m)</p> <p>=E/L<sub>1</sub></p> <p>上式中</p> <p>L<sub>1</sub> : 作業坑トンネル延長…………… ( m )</p> <p><u>E = 1,208 + 1,711 L<sub>2</sub> + 278 L<sub>2</sub><sup>2</sup> + 114 M</u></p> <p>上式中</p> <p>E : 工事用電灯、電力設備費…………… ( 万円 )</p> <p>L<sub>2</sub> : 作業坑トンネル延長…………… ( km )</p> <p>M : 掘削開始から掘削完了までの月数…………… ( 月 )</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、本坑の算定式による。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費(13 m<sup>3</sup>)は必要により別途計上する。</p>

ページ	改 正	現 行																																																								
<p>現 12 改 12</p>	<p>7-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">種別</th> <th rowspan="3">単位</th> <th colspan="6">設計吹付厚</th> <th rowspan="3">記事</th> </tr> <tr> <th colspan="2">岩Ⅱ</th> <th colspan="2">岩Ⅰ</th> <th colspan="2">岩ⅠL</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>拡大部</th> <th>一般部</th> <th>拡大部</th> <th>一般部</th> <th>拡大部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="2">3cm</td> <td colspan="2">5cm</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.10</td> <td></td> <td>1.10</td> <td></td> <td>1.10</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注1) 岩ⅠLでは原則として鏡吹付を実施する。</u>  <u>(注2) 岩Ⅰ・岩Ⅱにおいて、切羽の肌落ち災害防止対策として鏡吹付を実施する場合は上表を標準とする。</u>  <u>(注3) 施工数量には、材料損失、はね返りを含む。</u>  <u>(注4) 施工数量は、分割練混ぜ工法による場合である。</u>  <u>(注5) 補助工法(鏡吹付)施工箇所は除く。</u></p>	種別	単位	設計吹付厚						記事	岩Ⅱ		岩Ⅰ		岩ⅠL		一般部	拡大部	一般部	拡大部	一般部	拡大部	施工数量	m <sup>3</sup>	3cm		5cm							1.10		1.10		1.10			<p>7-1-2-2 鏡吹付コンクリート施工数量 (V<sub>2</sub>) は、下表を標準とする。 (設計1m<sup>3</sup>当り)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">設計吹付厚</th> <th rowspan="2">記事</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>拡大部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施工数量</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td colspan="2">3cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">1.10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u>  <u>(注1) 施工数量には、材料損失、はね返り、余吹きを含む。</u>  <u>(注2) 設計吹付厚が中間値となる場合は、比例計算する。</u>  <u>(注3) 施工数量は分割練混ぜ工法による場合である。</u></p>	種別	単位	設計吹付厚		記事	一般部	拡大部	施工数量	m <sup>3</sup>	3cm					1.10		
種別	単位			設計吹付厚							記事																																															
				岩Ⅱ		岩Ⅰ		岩ⅠL																																																		
		一般部	拡大部	一般部	拡大部	一般部	拡大部																																																			
施工数量	m <sup>3</sup>	3cm		5cm																																																						
		1.10		1.10		1.10																																																				
種別	単位	設計吹付厚		記事																																																						
		一般部	拡大部																																																							
施工数量	m <sup>3</sup>	3cm																																																								
		1.10																																																								
<p>現 27 改 27</p>	<p>9-4 換気設備 (1) 設備標準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 換気設備は、トンネル延長が 30m以上に設備することとし、切羽から坑口までの距離が 30mに達した時から行う。</li> <li>2) 送風機は、坑口付近に設備し吸引捕集方式(送気・吸引捕集式)とする。</li> <li>3) 送風機容量は、切羽位置が 500mまでは 500 m<sup>3</sup>/min(4.9kPa 30kw×2)、これを超え 2,000mまでは 750 m<sup>3</sup>/min(3.4kPa 37kw×2)とする。</li> <li>4) 集塵機は、切羽位置が 150mに達した時点で坑内に設備し、切羽の進行に伴って順次移動する吸引捕集式とする。</li> <li>5) 集塵機容量は、750 m<sup>3</sup>/min (15kw) とする。</li> <li>6) 送風機は、送風機容量が替わる都度設備替えするものとする。</li> <li>7) 送風管の種類は、ビニール風管径 1,200 mm(定尺長 L=10m)を設備する。</li> <li>8) 切羽からの控え長さは、40mを標準とする。</li> <li>9) <u>吸引捕集方式の場合は、集塵機に伸縮ダクト径 1,400mm(L=80m)を設備する。</u></li> </ol> <p>(2) 換気設備台数 <u>(削除)</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用トンネル 片押延長(L)</th> <th rowspan="2">切羽位置</th> <th rowspan="2">送風機の種類</th> <th rowspan="2">設備 台数</th> <th colspan="2">風 管</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>布設長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">2,000mまで</td> <td>500mまで</td> <td>送風機 500 m<sup>3</sup>/min (可変) 30kW×2 台組</td> <td>1台</td> <td rowspan="2">ビニール 径 1,200mm</td> <td rowspan="2">L-40m</td> </tr> <tr> <td>2,000mまで</td> <td>送風機 750 m<sup>3</sup>/min (可変) 37kW×2 台組</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>150mから 2,000mまで</td> <td>集塵機 750 m<sup>3</sup>/min 15kW</td> <td>1台</td> <td>伸縮ダクト 径 1,400mm</td> <td>L=80m</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 表中の(可変)とは、可変風量型ファンである。</p>	適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	送風機の種類	設備 台数	風 管		種別	布設長	2,000mまで	500mまで	送風機 500 m <sup>3</sup> /min (可変) 30kW×2 台組	1台	ビニール 径 1,200mm	L-40m	2,000mまで	送風機 750 m <sup>3</sup> /min (可変) 37kW×2 台組	1台	150mから 2,000mまで	集塵機 750 m <sup>3</sup> /min 15kW	1台	伸縮ダクト 径 1,400mm	L=80m	<p>9-4 換気設備 (1) 設備標準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 換気設備は、トンネル延長が 30m以上に設備することとし、切羽から坑口までの距離が 30mに達した時から行う。</li> <li>2) 送風機は、坑口付近に設備し吸引捕集方式(送気・吸引捕集式)とする。</li> <li>3) 送風機容量は、切羽位置が 500mまでは 500 m<sup>3</sup>/min(4.9kPa 30kw×2)、これを超え 2,000mまでは 750 m<sup>3</sup>/min(3.4kPa 37kw×2)とする。</li> <li>4) 集塵機は、切羽位置が 150mに達した時点で坑内に設備し、切羽の進行に伴って順次移動する吸引捕集式とする。</li> <li>5) 集塵機容量は、750 m<sup>3</sup>/min (15kw) とする。</li> <li>6) 送風機は、送風機容量が替わる都度設備替えするものとする。</li> <li>7) 送風管の種類は、ビニール風管径 1,200 mm(定尺長 L=10m)を設備する。</li> <li>8) 切羽からの控え長さは、40mを標準とする。</li> </ol> <p><u>(新設)</u></p> <p>(2) 換気設備台数</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用トンネル 片押延長(L)</th> <th rowspan="2">切羽位置</th> <th rowspan="2">送風機の種類</th> <th rowspan="2">設備 台数</th> <th colspan="2">風 管</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>布設長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">2,000mまで</td> <td>500mまで</td> <td>送風機 500 m<sup>3</sup>/min (可変) 30kW×2 台組</td> <td>1台</td> <td rowspan="2">ビニール 径 1,200mm</td> <td rowspan="2">L-40m</td> </tr> <tr> <td>2,000mまで</td> <td>送風機 750 m<sup>3</sup>/min (可変) 37kW×2 台組</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(注) 表中の(可変)とは、可変風量型ファンである。</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align:center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用トンネル 片押延長(L)</th> <th rowspan="2">切羽位置</th> <th rowspan="2">集塵機の種類</th> <th rowspan="2">設備 台数</th> <th colspan="2">風 管</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>布設長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,000mまで</td> <td>150mから 2,000mまで</td> <td>集塵機 750 m<sup>3</sup>/min 15kW</td> <td>1台</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新設)</u></p>	適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	送風機の種類	設備 台数	風 管		種別	布設長	2,000mまで	500mまで	送風機 500 m <sup>3</sup> /min (可変) 30kW×2 台組	1台	ビニール 径 1,200mm	L-40m	2,000mまで	送風機 750 m <sup>3</sup> /min (可変) 37kW×2 台組	1台	適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	集塵機の種類	設備 台数	風 管		種別	布設長	2,000mまで	150mから 2,000mまで	集塵機 750 m <sup>3</sup> /min 15kW	1台					
適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置					送風機の種類	設備 台数	風 管																																																		
		種別	布設長																																																							
2,000mまで	500mまで	送風機 500 m <sup>3</sup> /min (可変) 30kW×2 台組	1台	ビニール 径 1,200mm	L-40m																																																					
	2,000mまで	送風機 750 m <sup>3</sup> /min (可変) 37kW×2 台組	1台																																																							
	150mから 2,000mまで	集塵機 750 m <sup>3</sup> /min 15kW	1台	伸縮ダクト 径 1,400mm	L=80m																																																					
適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	送風機の種類	設備 台数	風 管																																																						
				種別	布設長																																																					
2,000mまで	500mまで	送風機 500 m <sup>3</sup> /min (可変) 30kW×2 台組	1台	ビニール 径 1,200mm	L-40m																																																					
	2,000mまで	送風機 750 m <sup>3</sup> /min (可変) 37kW×2 台組	1台																																																							
適用トンネル 片押延長(L)	切羽位置	集塵機の種類	設備 台数	風 管																																																						
				種別	布設長																																																					
2,000mまで	150mから 2,000mまで	集塵機 750 m <sup>3</sup> /min 15kW	1台																																																							

ページ	改 正	現 行
現 27 改 27	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 2,000mまで</p> <p>ア) 送風機 500m<sup>3</sup>/min (30 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 <math>D=21 \times M_1</math></p> <p>②供用日数 <math>K=30 \times M_1</math></p> <p>イ) 送風機 750m<sup>3</sup>/min (37 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 <math>D=21 \times M_2</math></p> <p>②供用日数 <math>K=30 \times M_2</math></p> <p>ウ) 集塵機 750m<sup>3</sup>/min (15 kw)</p> <p>①運転日数 <math>D=21 \times M_3</math></p> <p>②供用日数 <math>K=30 \times M_3</math></p> <p><u>エ) 伸縮ダクト 1,400mm(L=80m)</u></p> <p><u>①運転日数 <math>D=21 \times M_3</math></u></p> <p><u>②供用日数 <math>K=30 \times M_3</math></u></p> <p>上式中</p> <p><math>M_1</math> : 坑口 30mから500mまでの月数…………… (月)</p> <p><math>M_2</math> : 500mから2,000mまでの月数…………… (月)</p> <p><math>M_3</math> : 150mから2,000mまでの月数…………… (月)</p>	<p>(4) 運転日数及び供用日数</p> <p>1) トンネル片押延長 2,000mまで</p> <p>ア) 送風機 500m<sup>3</sup>/min (30 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 <math>D=21 \times M_1</math></p> <p>②供用日数 <math>K=30 \times M_1</math></p> <p>イ) 送風機 750m<sup>3</sup>/min (37 kW×2 台組) /可変風量型</p> <p>①運転日数 <math>D=21 \times M_2</math></p> <p>②供用日数 <math>K=30 \times M_2</math></p> <p>ウ) 集塵機 750m<sup>3</sup>/min (15 kw)</p> <p>①運転日数 <math>D=21 \times M_3</math></p> <p>②供用日数 <math>K=30 \times M_3</math></p> <p><u>(新設)</u></p> <p>上式中</p> <p><math>M_1</math> : 坑口 30mから500mまでの月数…………… (月)</p> <p><math>M_2</math> : 500mから2,000mまでの月数…………… (月)</p> <p><math>M_3</math> : 150mから2,000mまでの月数…………… (月)</p>
現 28 改 28		
現 31 改 31	<p>9-10-1 工事用電灯、電力設備及び保守費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は、坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事用電灯、電力設備(円/m)</p> <p><math>= E_L / L_1</math> 又は <math>E_N / L_1</math></p> <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : 作業坑トンネル延長…………… ( m )</p> <p><u><math>E_L = 1,385 + 1,775L_2 + 366L_2^2 + 116M</math></u></p> <p><u><math>E_N = 1,261 + 1,802L_2 + 331L_2^2 + 119M</math></u></p> <p>上式中</p> <p><math>E_L</math> : 岩 I ( I L ) 工事用電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>E_N</math> : 岩 I、岩 II 工事用電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>L_2</math> : 作業坑トンネル延長…………… ( km )</p> <p><math>M</math> : 掘削開始から掘削完了までの月数…………… ( 月 )</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、本坑の算定式による。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>	<p>9-10-1 工事用電灯、電力設備及び保守費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は、坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事用電灯、電力設備(円/m)</p> <p><math>= E_L / L_1</math> 又は <math>E_N / L_1</math></p> <p>上式中</p> <p><math>L_1</math> : 作業坑トンネル延長…………… ( m )</p> <p><u><math>E_L = 1,244 + 1,554L_2 + 355L_2^2 + 114M</math></u></p> <p><u><math>E_N = 1,135 + 1,577L_2 + 320L_2^2 + 117M</math></u></p> <p>上式中</p> <p><math>E_L</math> : 岩 I ( I L ) 工事用電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>E_N</math> : 岩 I、岩 II 工事用電灯、電力設備…………… (万円)</p> <p><math>L_2</math> : 作業坑トンネル延長…………… ( km )</p> <p><math>M</math> : 掘削開始から掘削完了までの月数…………… ( 月 )</p> <p>(注1) 作業坑に引き続いて本坑を施工する場合は、本坑の算定式による。</p> <p>(注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m<sup>3</sup>) は必要により別途計上する。</p>

ページ	P6
-----	----

種別	規格			基礎 価格	使用 年数	年間標準			償却 費率	維持修 理費率	年間管 理費率	供用1日 当り損料	運転1時間 当り損料	摘要
	諸元	機関出力	質量			運転時間	運転日数	供用日数						
2 トンネル工専用機械損料表														
下記機械損料表は、同一工区のトンネル工事における標準使用期間内に使用する場合であり、標準使用期間を超えて使用する場合の機械の損料算出は、土木関係共通積算要領 III.2-3に定めるところによる。														
ドリルジャンボ														
	ホイール式・2アーム・1バスケット ドリフト質量 150kg級 排出ガス対策型(第1次基準値)	(走)60 (作)110	27.6	93,300	6.0	870	150	210	93	55	10	78,800	18,100	
	ホイール式・2アーム・2バスケット ドリフト質量 150kg級 排出ガス対策型(第1次基準値)	(走)108 (作)110	30.0	101,000	6.0	870	150	210	93	55	10	85,300	19,600	
	ホイール式・3アーム・2バスケット ドリフト質量 170kg超級 排出ガス対策型(第3次基準値)	(走)119 (作)165	44.0	<u>190,000</u>	4.5	1,150	150	210	93	55	10	<u>184,000</u>	<u>37,200</u>	
自由断面トンネル掘進機														
	カッターヘッド' 90~110 kW	161	29	66,000	4.5	960	150	210	93	55	9	60,800	15,500	第2ベルコンを含む。 平成23年度単価
	カッターヘッド' 200~240 kW	310	54.0	<u>130,000</u>	5.0	880	140	190	93	50	10	<u>132,000</u>	<u>28,500</u>	
油圧式トンネル切削機														
	1,500kg級	—	1.4	<u>6,550</u>	6.0	600	90	170	91	65	8	<u>6,010</u>	<u>2,010</u>	
クローラローダ														
	トンネル専用機 サイドダンプ式・山積1.5~1.6m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第1次基準値)	82	15.1	15,800	9.5	680	150	210	93	45	10	11,200	2,240	
ホイールローダ														
	トンネル専用機 サイドダンプ式・山積容量2.3m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第2次基準値)	140	18.5	21,000	9.5	660	150	200	93	45	10	15,600	3,070	
	トンネル専用機 サイドダンプ式・山積容量3.0m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第2次基準値)	193	24.4	31,300	9.5	660	150	200	93	45	10	23,300	4,570	
バックホウ														
	トンネル専用機 クローラ型山積0.45m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第3次基準値)	60	12.6	14,300	8.5	450	140	200	92	45	10	11,000	3,400	
	トンネル専用機 クローラ型・山積0.8m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第3次基準値)	104	21.4	19,500	8.5	450	140	200	92	45	10	15,000	4,640	

種別	規格			基礎 価格	使用 年数	年間標準			償却 費率	維持修 理費率	年間管 理費率	供用1日 当り損料	運転1時間 当り損料	摘要
	諸元	機関出力	質量			運転時間	運転日数	供用日数						
2 トンネル工専用機械損料表														
下記機械損料表は、同一工区のトンネル工事における標準使用期間内に使用する場合であり、標準使用期間を超えて使用する場合の機械の損料算出は、土木関係共通積算要領 III.2-3に定めるところによる。														
ドリルジャンボ														
	ホイール式・2アーム・1バスケット ドリフト質量 150kg級 排出ガス対策型(第1次基準値)	(走)60 (作)110	27.6	93,300	6.0	870	150	210	93	55	10	78,800	18,100	
	ホイール式・2アーム・2バスケット ドリフト質量 150kg級 排出ガス対策型(第1次基準値)	(走)108 (作)110	30.0	101,000	6.0	870	150	210	93	55	10	85,300	19,600	
	ホイール式・3アーム・2バスケット ドリフト質量 170kg超級 排出ガス対策型(第3次基準値)	(走)119 (作)165	44.0	<u>188,000</u>	4.5	1,150	150	210	93	55	10	<u>182,000</u>	<u>36,800</u>	
自由断面トンネル掘進機														
	カッターヘッド' 90~110 kW	161	29	66,000	4.5	960	150	210	93	55	9	60,800	15,500	第2ベルコンを含む。 平成23年度単価
	カッターヘッド' 200~240 kW	310	54.0	<u>108,000</u>	5.0	880	140	190	93	50	10	<u>110,000</u>	<u>23,700</u>	
油圧式トンネル切削機														
	1,500kg級	—	1.4	<u>6,300</u>	6.0	600	90	170	91	65	8	<u>5,780</u>	<u>1,930</u>	
クローラローダ														
	トンネル専用機 サイドダンプ式・山積1.5~1.6m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第1次基準値)	82	15.1	15,800	9.5	680	150	210	93	45	10	11,200	2,240	
ホイールローダ														
	トンネル専用機 サイドダンプ式・山積容量2.3m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第2次基準値)	140	18.5	21,000	9.5	660	150	200	93	45	10	15,600	3,070	
	トンネル専用機 サイドダンプ式・山積容量3.0m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第2次基準値)	193	24.4	31,300	9.5	660	150	200	93	45	10	23,300	4,570	
バックホウ														
	トンネル専用機 クローラ型山積0.45m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第3次基準値)	60	12.6	14,300	8.5	450	140	200	92	45	10	11,000	3,400	
	トンネル専用機 クローラ型・山積0.8m <sup>3</sup> 排出ガス対策型(第3次基準値)	104	21.4	19,500	8.5	450	140	200	92	45	10	15,000	4,640	

6-3-9 トンネル仮設備工（濁水処理設備）・機械損料表他【新旧対照表 R6.9】

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
	諸元	機関出力 kW (PS)	質量 (t)			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
大型ブレーカ														
	油圧式1,300kg 20t級 (ベスマシン含む) 排出ガス対策型(第3次基準値)	104	21.3	24,200	8.0	—	170	230	93	85	10	16,600	(日)23,000	
ダンプトラック														
	トンネル工事用 オフロード 23t~25t積 排出ガス対策型(第2次基準値)	191	20	36,500	7.0	1,280	180	230	90	45	10	26,100	3,650	
													1,320	夕付損耗費(普通)
											計	26,100	≒4,970	
	トンネル工事用 積載質量10t積	246	9.7	14,200	7.0	1,280	180	230	88	45	13	11,900	1,410	
													259	夕付損耗費(普通)
											計	11,900	≒1,669	
連続ベルトコンベヤシステム														
	メインドライブ 160kw	160	9.6	54,400	7.5	1,100	190	280	90	15	8	27,200	3,970	
	メインドライブ 110kw	110	8.7	46,200	7.5	1,100	190	280	90	15	8	23,100	3,370	
	中間ブースタードライブ 160kw	160	9.6	54,400	7.5	1,100	190	280	90	15	8	27,200	3,970	
	中間ブースタードライブ 110kw	110	8.7	46,200	7.5	1,100	190	280	90	15	8	23,100	3,370	
	ベルトストレージ 300m巻	37	28.0	65,000	7.5	1,100	190	280	90	15	8	32,500	4,750	
	テールピース台車	45	27.0	54,900	7.5	1,100	190	280	90	15	8	27,500	4,010	
	中間ベルコン 610mm幅100m当り	—	11.0	5,260	7.5	1,100	190	280	90	15	8	2,630	384	
	自走式クラッシャー 132kw級	169	54.0	131,000	7.5	1,100	190	280	90	15	8	65,500	9,560	
	自走式クラッシャー 90kw級	127	38.0	100,000	7.5	1,100	190	280	90	15	8	50,000	7,300	
	自走式クラッシャー 55kw級	92	34.0	75,300	7.5	1,100	190	280	90	15	8	37,700	5,500	

  

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
	諸元	機関出力 kW (PS)	質量 (t)			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
大型ブレーカ														
	油圧式1,300kg 20t級 (ベスマシン含む) 排出ガス対策型(第3次基準値)	104	21.3	24,200	7.5	—	170	230	93	85	10	17,000	(日)25,000	
ダンプトラック														
	トンネル工事用 オフロード 23t~25t積 排出ガス対策型(第2次基準値)	191	20	36,500	7.0	1,280	180	230	90	55	10	26,100	4,090	
													1,180	夕付損耗費(普通)
											計	26,100	≒5,270	
	トンネル工事用 積載質量10t積	246	9.7	13,500	7.0	1,280	180	230	88	55	13	11,300	1,490	
													231	夕付損耗費(普通)
											計	11,300	≒1,720	
連続ベルトコンベヤシステム														
	メインドライブ 160kw	160	9.6	54,400	7.5	1,100	190	280	90	15	8	27,200	3,970	
	メインドライブ 110kw	110	8.7	46,200	7.5	1,100	190	280	90	15	8	23,100	3,370	
	中間ブースタードライブ 160kw	160	9.6	54,400	7.5	1,100	190	280	90	15	8	27,200	3,970	
	中間ブースタードライブ 110kw	110	8.7	46,200	7.5	1,100	190	280	90	15	8	23,100	3,370	
	ベルトストレージ 300m巻	37	28.0	65,000	7.5	1,100	190	280	90	15	8	32,500	4,750	
	テールピース台車	45	27.0	54,900	7.5	1,100	190	280	90	15	8	27,500	4,010	
	中間ベルコン 610mm幅100m当り	—	11.0	5,260	7.5	1,100	190	280	90	15	8	2,630	384	
	自走式クラッシャー 132kw級	169	54.0	131,000	7.5	1,100	190	280	90	15	8	65,500	9,560	
	自走式クラッシャー 90kw級	127	38.0	100,000	7.5	1,100	190	280	90	15	8	50,000	7,300	
	自走式クラッシャー 55kw級	92	34.0	75,300	7.5	1,100	190	280	90	15	8	37,700	5,500	



6-3-9 トンネル仮設備工（濁水処理設備）・機械損料表他【新旧対照表 R6.9】

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
	諸元	機関出力	質量			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
		kW (PS)	(t)											
作業坑ベルコン														
	搬出勾配+6%以上 ベルコン610mm幅	—		(注5)	7.5	1,100	190	280	90	15	8	別途算出	別途算出	
	搬出勾配+6%未満及び下り勾配 ベルコン610mm幅	—		(注6)	7.5	1,100	190	280	90	15	8	別途算出	別途算出	
インバート棧橋														
	耐力、40t、横移動式	5.5	51.5	51,000	11.0	—	—	180	93	55	8	60,800	—	
	耐力 30t 横移動式	5.5	50	47,300	11.0	—	—	180	93	55	8	56,400	—	
トラック														
	トンネル工事用・クレーン装置付 積載荷重4t積・吊能力2.9t吊	132	4.6	6,970	11.0	290	150	210	93	40	13	5,720	1,890	
高所作業車														
	トラック架装リフト・フーム型作業床高12m	96	6.7	7,520	13.5	500	100	140	89	25	10	7,140	775	
コンクリート吹付機														
	湿式吹付・R一体型・C搭載型・エレクト型 吐出量6~22m <sup>3</sup> /h級 排出ガス対策型(第3次基準値)	(走)186 (作)170	42	180,000	6.5	740	160	210	93	65	10	147,000	41,800	
吹付プラント														
	パッチャープラント (一般地区)能力15m <sup>3</sup> /h分割練混ぜ 0.50m <sup>3</sup> /バッチ	35	7	34,200	9.0	210	150	220	91	70	10	23,400	20,900	分割練混ぜ工法型
	パッチャープラント (寒冷地区)能力15m <sup>3</sup> /h分割練混ぜ 0.50m <sup>3</sup> /バッチ	35	7.7	37,950	9.0	210	150	220	91	70	10	25,970	23,190	分割練混ぜ工法型 保温設備含む
	骨材供給設備能力15m <sup>3</sup> /hプラント用	11.8	8.7	22,000	15.0	720	140	220	91	55	10	13,000	2,050	
	サイロ容量30t	9.95	8.7	7,280	9.0	—	—	220	91	70	10	9,230	—	
トラックミキサ														
	混合容量4.4m <sup>3</sup>	213	9.2	10,900	11.0	750	150	180	91	40	10	8,560	1,130	
コンクリートポンプ車														
	トラック架装・配管式 圧送能力 40~45m <sup>3</sup> /h	82	4.8	10,800	10.0	720	100	130	91	55	10	12,100	1,510	

  

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
	諸元	機関出力	質量			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
		kW (PS)	(t)											
作業坑ベルコン														
	搬出勾配+6%以上 ベルコン610mm幅	—		(注5)	7.5	1,100	190	280	90	15	8	別途算出	別途算出	
	搬出勾配+6%未満及び下り勾配 ベルコン610mm幅	—		(注6)	7.5	1,100	190	280	90	15	8	別途算出	別途算出	
インバート棧橋														
	耐力、40t、横移動式	5.5	51.5	51,000	11.0	—	—	180	93	55	8	60,800	—	
	耐力 30t 横移動式	5.5	50	47,300	11.0	—	—	180	93	55	8	56,400	—	
トラック														
	トンネル工事用・クレーン装置付 積載荷重4t積・吊能力2.9t吊	132	4.6	6,510	11.0	290	150	210	93	40	13	5,340	1,760	
高所作業車														
	トラック架装リフト・フーム型作業床高12m	96	6.7	7,300	13.5	500	100	140	89	25	10	6,940	752	
コンクリート吹付機														
	湿式吹付・R一体型・C搭載型・エレクト型 吐出量6~22m <sup>3</sup> /h級 排出ガス対策型(第3次基準値)	(走)186 (作)170	42	180,000	6.5	740	160	210	93	65	10	147,000	41,800	
吹付プラント														
	パッチャープラント (一般地区)能力15m <sup>3</sup> /h分割練混ぜ 0.50m <sup>3</sup> /バッチ	35	7	32,000	9.0	210	150	220	91	70	10	21,900	19,600	分割練混ぜ工法型
	パッチャープラント (寒冷地区)能力15m <sup>3</sup> /h分割練混ぜ 0.50m <sup>3</sup> /バッチ	35	7.7	35,500	9.0	210	150	220	91	70	10	24,290	21,740	分割練混ぜ工法型 保温設備含む
	骨材供給設備能力15m <sup>3</sup> /hプラント用	11.8	8.7	20,600	15.0	720	140	220	91	55	10	12,200	1,920	
	サイロ容量30t	9.95	8.7	6,800	9.0	—	—	220	91	70	10	8,620	—	
トラックミキサ														
	混合容量4.4m <sup>3</sup>	213	9.2	10,400	11.0	750	150	180	91	40	10	8,160	1,080	
コンクリートポンプ車														
	トラック架装・配管式 圧送能力 40~45m <sup>3</sup> /h	82	4.8	10,600	10.0	720	100	130	91	60	10	11,900	1,560	

6-3-9 トンネル仮設備工（濁水処理設備）・機械損料表他【新旧対照表 R6.9】

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要	
	諸元	機関出力	質量			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)							
		kW (PS)	(t)												
空気圧縮機(定置式・スクロー型)															
	吐出量 3.0~3.7 m <sup>3</sup> /min 吐出圧0.7~0.88MPa	22	0.67	1,910	13.0	820	120	170	96	20	8	1,310	122		
パイプレータ															
	高周波パイプレータ 40mm	0.25	0.01	140	5.0	—	90	110	93	45	8	285	(換日)453		
モルタル注入ポンプ															
	吐出量 97~237ℓ/min	9.7	0.45	3,880	12.0	—	80	130	92	70	8	3530	(日)4,690	アジテーターホッパーを含む	
ターンテーブル															
	ダンプトラック等用・ 電動式積載質量30t車用	3.7	12	6,870	11.0	—	—	180	93	55	8	8,190	—		
	ダンプトラック等用・ 電動式積載質量10t車用	2.2	10.0	6,040	11.0	—	—	180	93	55	8	7,200	—		
タービンポンプ(片吸込形)															
	口径65mm、5段、全揚程60m	7.5	0.26	647	13.0	—	90	140	92	110	8	533	(日)862		
サンドポンプ															
	口径80mm、全揚程10m	3.0	0.07	242	10.5	—	90	130	92	120	8	230	(日)425		
マイクロバス															
	乗車定員15名	58	1.6	2,080	11.0	510	180	220	93	50	13	1,630	358		

  

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要	
	諸元	機関出力	質量			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)							
		kW (PS)	(t)												
空気圧縮機(定置式・スクロー型)															
	吐出量 3.0~3.7 m <sup>3</sup> /min 吐出圧0.7~0.88MPa	22	0.67	1,910	13.0	820	120	170	96	25	8	1,310	130		
パイプレータ															
	高周波パイプレータ 40mm	0.25	0.01	136	5.0	—	90	110	93	45	8	214	(換日)538		
モルタル注入ポンプ															
	吐出量 97~237ℓ/min	9.7	0.45	3880	12.0	—	80	130	92	70	8	3530	(日)4,690	アジテーターホッパーを含む	
ターンテーブル															
	ダンプトラック等用・ 電動式積載質量30t車用	3.7	12	6,870	11.0	—	—	180	93	55	8	8,190	—		
	ダンプトラック等用・ 電動式積載質量10t車用	2.2	10.0	6,040	11.0	—	—	180	93	55	8	7,200	—		
タービンポンプ(片吸込形)															
	口径65mm、5段、全揚程60m	7.5	0.26	616	13.0	—	90	140	92	110	8	508	(日)821		
サンドポンプ															
	口径80mm、全揚程10m	3.0	0.07	230	10.5	—	90	130	92	120	8	219	(日)404		
マイクロバス															
	乗車定員15名	58	1.6	1,960	11.0	510	180	220	93	55	13	1,530	355		

6-3-9 トンネル仮設備工（濁水処理設備）・機械損料表他【新旧対照表 R6.9】

種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要	
	諸元	機関出力 kW (PS)	質量 (t)			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)							
送風機															
	風量 500m <sup>3</sup> /min、 風圧 4.9 Kpa	30×2	1.3	4,840	11.5	—	130	190	93	55	8	3,070	(日)3,290	可変風量型・ サイレンサ型ファン	
	風量 750m <sup>3</sup> /min、 風圧 3.4 Kpa	37×2	2.1	8,120	11.5	—	130	190	93	55	8	5,150	(日)5,510	可変風量型・ サイレンサ型ファン	
	風量 1,200m <sup>3</sup> /min、 風圧 3.9 Kpa	55×2	7.8	12,700	11.5	—	130	190	93	55	8	8,050	(日)8,620	可変風量型・ サイレンサ型ファン	
	風量 1,500m <sup>3</sup> /min、 風圧 4.9 Kpa	80×2	8	21,000	11.5	—	130	190	93	55	8	13,300	(日)14,300	可変風量型・ サイレンサ型ファン	
	風量 2,000m <sup>3</sup> /min、 風圧 4.9 Kpa	110×2	8.2	24,200	11.5	—	130	190	93	55	8	15,300	(日)16,400	可変風量型・ サイレンサ型ファン	
集塵機															
	定格風量 750m <sup>3</sup> /min	15	4.3	30,400	10.5	—	120	180	91	55	10	24,200	(日)24,300	伸縮ダクト φ1,400mm L=80 m含まない	
	定格風量 2,400m <sup>3</sup> /min	64	6.8	56,500	10.5	—	120	180	91	55	10	45,000	(日)45,100	伸縮ダクト φ1,500mm L=80 m含まない	
伸縮ダクト															
	φ1,400mm L=80m	—	1.4	17,600	10.5	—	120	180	91	55	10	14,000	(日)14,000	入口ダクトを含み、集塵機本 体、搭載用架台車含まない	
	φ1,500mm L=80m	—	1.7	18,200	10.5	—	120	180	91	55	10	14,500	(日)14,500	入口ダクトを含み、集塵機本 体、搭載用架台車含まない	
給水槽															
	鋼板製簡易水槽 容量20m <sup>3</sup>	—	3.8	1,580	9.5	—	—	160	93	40	8	2,170	—		
ハンドドリル															
	空圧式 20kg級	—	0.02	213	5.5	—	70	120	93	25	8	292	(日)396		
工事中高圧洗浄器															
	モーター駆動吐出量30.1ℓ/min 圧力4.9MPa	3.7	0.11	402	11.0	—	110	150	93	125	8	328	(日)570		

(注1) トンネル掘削工(発破方式)において、トンネル専用機ではないホイールローダ・クローラローダ、バックホウ(大型ブレード用ベースマシン含む)・ダンプトラックを使用する場合は機械損料の補正を行うものとし、  
岩石工に対する補正は次の補正率とする。補正率: 岩Ⅰ: 10% 岩Ⅱ: 20% 岩Ⅲ、Ⅳ: 25%

(注2) 換日は、運転1日当り換算値である。

(注3) 作業坑バルコン(搬出勾配+6%以上)基礎価格(単位:千円)=-0.0026L<sup>2</sup>+151L+14,273 L=作業坑口延長(m)  
※作業坑延長は2,000mまでとする。基礎価格は、作業坑の線形が直線の場合である。曲線の場合は別途考慮する。

(注4) 作業坑バルコン(搬出勾配+6%未満及び下り勾配)基礎価格(単位:千円)=-0.0068L<sup>2</sup>+130L+10,460 L=作業坑延長(m)  
※作業坑延長は2,000mまでとする。基礎価格は、作業坑の線形が直線の場合である。曲線の場合は別途考慮する。

改正

現行

ページ	P11
-----	-----

3 トンネル工事中濁水処理設備損料算定表														
種別	規格			基礎価格 (千円)	使用年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
	諸元	機関出力	質量			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
		kW (PS)	(t)											
濁水処理プラント(トンネル用)														
〔角形シクナ〕														
	処理能力 30m3/h	8.4	4.2	16,700	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	5,970	207	
	処理能力 60m3/h	15.0	9.3	25,300	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	9,040	314	
	処理能力 120m3/h	28.0	17.8	40,700	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	14,500	505	
	処理能力 180m3/h	32.0	29.5	45,500	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	16,300	564	
	処理能力 240m3/h	54.0	38.5	73,100	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	26,100	906	
	処理能力 300m3/h	56.0	40.4	75,100	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	26,800	931	
	処理能力 360m3/h	84.0	55.7	109,000	19.9	67,100	3,600	4,700	97	35	6	38,900	1,350	
〔フィルタプレス〕														
	処理能力 30m3/h	9.4	7.3	23,500	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	8,390	345	
	処理能力 60m3/h	9.4	7.3	23,500	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	8,390	345	
	処理能力 120m3/h	9.4	18.1	29,300	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	10,500	431	
	処理能力 180m3/h	27.0	22.9	26,900	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	13,200	542	
	処理能力 240m3/h	27.0	22.9	36,900	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	13,200	542	
	処理能力 300m3/h	28.0	29.0	40,700	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	14,500	598	
	処理能力 360m3/h	28.0	30.5	44,600	19.9	67,100	3,600	4,700	97	50	6	15,900	656	

3 トンネル工事中濁水処理設備損料算定表														
種別	規格			基礎価格 (千円)	使用年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
	諸元	機関出力	質量			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
		kW (PS)	(t)											
濁水処理プラント(トンネル用)														
〔角形シクナ〕														
	処理能力 30m3/h	8.4	4.2	15,500	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	5,490	211	
	処理能力 60m3/h	15.0	9.3	23,400	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	8,290	318	
	処理能力 120m3/h	28.0	17.8	37,700	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	13,400	513	
	処理能力 180m3/h	32.0	29.5	42,100	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	14,900	573	
	処理能力 240m3/h	54.0	38.5	67,700	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	24,000	921	
	処理能力 300m3/h	56.0	40.4	69,500	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	24,600	945	
	処理能力 360m3/h	84.0	55.7	101,000	17.9	65,000	3,400	4,400	97	40	6	35,800	1,370	
〔フィルタプレス〕														
	処理能力 30m3/h	9.4	7.3	21,800	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	7,720	364	
	処理能力 60m3/h	9.4	7.3	21,800	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	7,720	364	
	処理能力 120m3/h	9.4	18.1	27,100	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	9,600	453	
	処理能力 180m3/h	27.0	22.9	34,200	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	12,100	571	
	処理能力 240m3/h	27.0	22.9	34,200	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	12,100	571	
	処理能力 300m3/h	28.0	29.0	37,700	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	13,400	630	
	処理能力 360m3/h	28.0	30.5	41,300	17.9	65,000	3,400	4,400	97	60	6	14,600	690	

6-3-9 トンネル仮設備工（濁水処理設備）・機械損料表他【新旧対照表 R6.9】

ページ	P12														
	種別	規格			基礎価格 (千円)	使用年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
諸元		機関出力 kW (PS)	質量 (t)	運転時間 (時間)			運転日数 (日)	供用日数 (日)							
改正	〔中和・計測設備〕														
		処理能力 30m <sup>3</sup> /h	5.0	1.5	9,500	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	3,390	175	
		処理能力 60m <sup>3</sup> /h	6.0	1.8	11,200	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	4,000	206	
		処理能力 120m <sup>3</sup> /h	15.0	2.1	12,700	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	4,540	234	
		処理能力 180m <sup>3</sup> /h	24.0	2.6	16,200	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	5,790	298	
		処理能力 240m <sup>3</sup> /h	30.0	3.0	18,300	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	6,540	337	
		処理能力 300m <sup>3</sup> /h	30.0	3.0	18,300	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	6,540	337	
		処理能力 360m <sup>3</sup> /h	45.0	3.8	23,800	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	8,500	438	
	〔炭酸ガスタンク〕														
		真空断熱式縦型10m <sup>3</sup> 貯蔵	-	8.3	10,800	19.9	67,100	3,600	4,700	97	75	6	3,860	199	
(注1) 中和・計測設備には、気化装置、ヒータ反応槽及び計測記録装置を含み、炭酸ガス供給設備(タンク、ポンプ)及び原水タンクは含まない。															
現行	〔中和・計測設備〕														
		処理能力 30m <sup>3</sup> /h	5.0	1.5	8,800	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	3,120	127	
		処理能力 60m <sup>3</sup> /h	6.0	1.8	10,400	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	3,680	150	
		処理能力 120m <sup>3</sup> /h	15.0	2.1	11,800	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	4,180	170	
		処理能力 180m <sup>3</sup> /h	24.0	2.6	15,000	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	5,310	216	
		処理能力 240m <sup>3</sup> /h	30.0	3.0	16,900	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	5,990	243	
		処理能力 300m <sup>3</sup> /h	30.0	3.0	16,900	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	5,990	243	
		処理能力 360m <sup>3</sup> /h	45.0	3.8	22,000	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	7,790	317	
	〔炭酸ガスタンク〕														
		真空断熱式縦型10m <sup>3</sup> 貯蔵	-	8.3	10,000	17.9	65,000	3,400	4,400	97	45	6	3,540	144	
(注1) 中和・計測設備には、気化装置、ヒータ反応槽及び計測記録装置を含み、炭酸ガス供給設備(タンク、ポンプ)及び原水タンクは含まない。															

ページ	P13
-----	-----

種 別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘 要
	諸元	機関出力 kW (PS)	質 量 (t)			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
電気供給対策設備(トンネル用)														
〔フリッカ対策機〕														
	補償容量													
	300kvar	-	6.2	18,200	18	-	-	150	97	40	8	18,900	-	
	400kvar	-	7.7	22,300	18	-	-	150	97	40	8	23,200	-	
	500kvar	-	9.2	26,300	18	-	-	150	97	40	8	27,400	-	
	600kvar	-	9.2	30,300	18	-	-	150	97	40	8	31,500	-	
	700kvar	-	11.2	34,300	18	-	-	150	97	40	8	35,700	-	
	800kvar	-	11.2	38,400	18	-	-	150	97	40	8	40,000	-	
	900kvar	-	11.2	42,300	18	-	-	150	97	40	8	44,000	-	
	1000kvar	-	18.4	46,400	18	-	-	150	97	40	8	48,300	-	
	1100kvar	-	18.4	50,300	18	-	-	150	97	40	8	52,400	-	
	1200kvar	-	18.4	54,400	18	-	-	150	97	40	8	56,600	-	
	1300kvar	-	20.4	58,400	18	-	-	150	97	40	8	60,800	-	
	1400kvar	-	20.4	62,400	18	-	-	150	97	40	8	65,000	-	
	1500kvar	-	20.4	66,500	18	-	-	150	97	40	8	69,200	-	400kvarと1100kvarの組合せ
	1600kvar	-	22.4	70,500	18	-	-	150	97	40	8	73,400	-	500kvarと1100kvarの組合せ
	1700kvar	-	22.4	74,500	18	-	-	150	97	40	8	77,600	-	600kvarと1100kvarの組合せ
〔変圧機励磁突入電流対策器〕														
	容量 1000kVA 6.6kV 3相	-	0.8	2,900	20	-	-	220	93	50	8	2,000	-	
	容量 2000kVA 6.6kV 3相	-	0.8	2,900	20	-	-	220	93	50	8	2,000	-	

種 別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘 要
	諸元	機関出力 kW (PS)	質 量 (t)			運転時間 (時間)	運転日数 (日)	供用日数 (日)						
電気供給対策設備(トンネル用)														
〔フリッカ対策機〕														
	補償容量													
	300kvar	-	3.5	17,500	18	-	-	150	97	40	8	18,200	-	
	400kvar	-	4.8	21,400	18	-	-	150	97	40	8	22,300	-	
	500kvar	-	6.0	25,300	18	-	-	150	97	40	8	26,300	-	
	600kvar	-	7.2	29,100	18	-	-	150	97	40	8	30,300	-	
	700kvar	-	8.5	33,000	18	-	-	150	97	40	8	34,400	-	
	800kvar	-	9.7	36,900	18	-	-	150	97	40	8	38,400	-	
	900kvar	-	11.0	40,700	18	-	-	150	97	40	8	42,400	-	
	1000kvar	-	12.0	44,600	18	-	-	150	97	40	8	46,400	-	
	1100kvar	-	13.0	48,400	18	-	-	150	97	40	8	50,400	-	
	1200kvar	-	15.0	52,300	18	-	-	150	97	40	8	54,400	-	
	1300kvar	-	16.0	56,200	18	-	-	150	97	40	8	58,500	-	
	1400kvar	-	17.0	60,000	18	-	-	150	97	40	8	62,500	-	
	1500kvar	-	18.0	63,900	18	-	-	150	97	40	8	66,500	-	400kvarと1100kvarの組合せ
	1600kvar	-	20.0	67,800	18	-	-	150	97	40	8	70,600	-	500kvarと1100kvarの組合せ
	1700kvar	-	21.0	71,600	18	-	-	150	97	40	8	74,500	-	600kvarと1100kvarの組合せ
〔変圧機励磁突入電流対策器〕														
	容量 1000kVA 6.6kV 3相	-	0.3	3,290	20	-	-	220	93	50	8	2,270	-	
	容量 2000kVA 6.6kV 3相	-	0.3	3,290	20	-	-	220	93	50	8	2,270	-	

ページ	P14														
	種別	規格			基礎 価格 (千円)	使用 年数 (年)	年間標準			償却 費率 (%)	維持修 理費率 (%)	年間管 理費率 (%)	供用1日 当り損料 (円)	運転1時間 当り損料 (円)	摘要
諸元		機関出力 kW (PS)	質量 (t)	運転時間 (時間)			運転日数 (日)	供用日数 (日)							
改正	〔絶縁変圧器〕														
	容量														
		500kVA	-	2.0	<u>8,630</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>5,950</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		750kVA	-	2.5	<u>12,400</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>8,540</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		1000kVA	-	3.5	<u>16,200</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>11,200</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		1500kVA	-	4.6	<u>20,200</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>13,900</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		2000kVA	-	6.5	<u>25,500</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>17,600</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
現行	〔絶縁変圧器〕														
	容量														
		500kVA	-	2.0	<u>9,790</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>6,750</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		750kVA	-	2.5	<u>14,000</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>9,650</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		1000kVA	-	3.5	<u>18,400</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>12,700</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		1500kVA	-	4.6	<u>22,900</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>15,800</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V
		2000kVA	-	6.5	<u>28,900</u>	20	-	-	220	93	50	8	<u>19,900</u>	-	相線式:3φ 6600V 50/60Hz TR(油入)3φ 6600/6600V